

# 2023 年度 公益社団法人日本地すべり学会東北支部 第 39 回総会議事録

開催場所：せんだいメディアテーク 7F スタジオシアター

開催日時：2023 年 5 月 12 日(金) 14:00~15:00

総会進行：瀬野幹事長 議事進行：大河原支部長

壇 上：大河原支部長, 高見副支部長, 瀬野幹事長

参加者：リモート出席 14 名, 会場出席 44 名(正会員) 委任状 44 名 合計 102 名

## 1.開会

高見副支部長による開会の挨拶、ならびに本日の流れなどの事務連絡

## 2.支部長挨拶

大河原支部長より総会に先立っての挨拶があった。

- 支部「運営規則」第 12 条の 2「支部総会の議長は、支部長がその任にあたる」との規定により、本日の議長を務めることを告げた。また、現在の正会員数 168 名に対し、正会員の 1/2 以上の出席を満たすことから、本総会は成立していることが告げられた。
- 総会議事録の作成を瀬野幹事長が行うように指示した。

## 3.議事

○第一号議案 2022 年度事業報告

- 事業報告の説明(議案書 p1~3)
- 2022 年度総会はコロナウイルス感染防止の観点から委任状による書面決議とし、当日は役員のためのオンライン形式で開催した。
- 役員会、幹事会、運営委員についてもオンライン形式で開催した。
- 運営委員会(2023/3/17)は、幹事会と合同開催とし、2023 年度議案書(案)を事前に送付し承認をもらった。
- 講演会(2022/7/22)は、ハイブリット開催とし、講演会に先立って、山形大学名誉教授 八木浩司氏に 2022 年度東北支部賞を授与した。
- 地すべり現地検討会は、コロナ感染防止を考慮し、対面・日帰り開催として、山形県最上郡大蔵村「柳淵地すべり」で工事施工中の現場視察と 8 班によるグループ討議及び発表、総合討論を実施した。
- 災害調査として令和 4 年 8 月豪雨災害に対して、(公社)砂防学会東北支部と合同で 9 月 23 日~24 日に現地調査を行った。当学会参加者は 2 名であった。
- 支部だより第 33 号を 2022 年 12 月に発刊した(印刷 235 部 発送 230 部)。
- 講師派遣として、秋田県地質調査業協会(秋田県と共催)主催の「令和 4 年度地質調査研修」(2022 年 7 月 29 日)に奥山ポーリング(株)藤井 登氏(支部会員)を派遣した。
- 関連団体との連携として以下の後援・投稿を行った。
  - 後援：(一社)地盤品質判定士会東北支部 被災地見学会(2022 年 7 月 28 日、11 月 22 日)
  - 後援：(公社)土木学会東北支部 「防災に関するシンポジウム」(2023 年 1 月 24 日)

投稿：(一社)斜面防災対策技術協会東北支部 機関紙「山が動く」

宮城豊彦氏：ベトナムにおける斜面災害リスク軽減関連調査企画の意味と困難性

森口周二氏：豪雨による土砂災害の予測・評価技術

西尾克人氏：令和4年8月豪雨に伴う山形県飯豊町土砂災害の緊急調査団報告

※第一号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

#### ○第二号議案 2022年度収支決算報告及び監査報告

- ・大澤事務局長が収支決算報告内容についての説明した（議案書 p4～5）。

今年度は協賛金を 10,000 円/団体として協賛いただいている。

- ・2022年度の収支決算は以下のとおりである。

収益 422,000 円 支出 555,529 円

次期繰越額 1,230,286 円－133,529 円－7,300 円(当期前払金)＝1,089,457 円

- ・監事である橋本修一氏、渋谷 保氏が監査結果を報告した（議案書 p6）。

※第二号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

#### ○第三号議案 2023年度事業計画

- ・2023年度事業計画の説明（議案書 p7～9）
- ・役員会、幹事会、運営委員会及び各委員会の開催予定の他、2024年度研究発表会の開催は、宮城大会となることを報告し、開催準備会及び実行委員会・幹事会を立上げることとした。
- ・今年度も引き続き「斜面変動研究のワーキング」開催していくが、若手会員の他、中堅会員の参加を促すことを念頭に、テーマは公募により絞り込みを行い分科会形式で開催する。
- ・講演会は、支部総会後の他、7月、11月に開催予定とし、運営委員の先生からの基調講演や砂防学会東北支部若手会と連携を取りながら共催についても検討する。
- ・研修会は「斜面防災危険度評価ガイドブック」の実践的な活用をテーマに、若手地形解析技術者の育成などを目的に複数回での開催を計画する。（第1回若手講習会を4/27に実施済み）
- ・地すべり現地検討会は宮城県「荒砥沢地すべり」を予定する。
- ・災害調査に関し、今年度も他学会や協会などと連携して調査を実施する。
- ・支部だより第34号を2023年12月に発行予定である。アウトリーチ事業の推進を念頭に、講師派遣などを通じた支部活動の広報、発信を行う。また、「地すべり調査・設計に関する技術講座」の開催を計画する。
- ・アウトリーチ対策及び会員数対策の各連絡会と連携を図り、活動の在り方を検討していく。

第三号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

○第四号議案 2023 年度収支予算

- 収支予算について、事務局より 2023 年度収支予算案について説明（議案書 p10～11）。協賛金は今年度より 20,000 円/団体に戻し計画している。
- 各事業計画を通常（対面）開催およびオンライン開催として予算計上していることを報告した。
- 収支予算見込みは以下のとおりである。

収益 1,710,020 円 支出 1,852,000 円 差額 -141,980 円

次期繰越額見込み 1,089,457 円 - 141,980 円=947,477 円

第四号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

○第五号議案 役員改選の件(議案書 p12)

- 大河原支部長の勇退に伴い、2023 年 3 月 17 日開催の運営委員会において次期支部長の承認を得た。

支部長 森口周二氏（東北大学災害科学国際研究所 准教授）

第五号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

○第六号議案 2024 年第 63 回研究発表会及び現地見学会の件(議案書 p12)

- ① 3 月 10 日 本部理事会において、2024 年度の研究発表会を東北支部管内で行うことが決定
- ② 3 月 17 日 東北支部運営・幹事会において、開催県を「宮城県（仙台市）」とすることに決定  
上記を告げ、今後の予定について説明があった。

第六号議案に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

○その他・報告事項（議案書 p12）

- 今年度の協賛金はコロナ禍も落ち着きを見せ始めたことから、本年度より積極的な事業実施を計画し、本来の 2 万円とすることを決定した。協賛金のお願いは総会終了後、3 か月以内での対応をお願いしたい。協賛をいただいた団体、企業については支部だよりに掲載する。
- 本部開催事業、研究発表会及び現地見学会の開催日程の報告

※その他事項に関して委任状を含め質問や意見等は無く承認された。

4.閉会

高見副支部長が総会の閉会を告げ終了した。



〔総会開催の様子〕

以上